

限られた予算 何を優先

砥部で自治体職員や学生ら

財務諸表できる過程学ぶ

財務諸表ができるまでを学ぶ参加者



町財政や公共施設の更新問題について考える砥部町の「まちづく

り体験塾」が9、10両日、役場などであり、自治体職員や会計学を

学ぶ学生ら約40人が会計の仕組みや財務諸表の見方を学び、限られた予算でのまちづくりの方策を考えた。

9日は政府会計学会

大塚成男教授(55)が講演。少子高齢化、人口減少による税収減が予測される中、「人件費、物件費、補助金の見直しが必要。行政サービスの提供につながっていない経費は削減すべきだ」と指摘した。

参加者は町財政の説明を聞き、仕訳から財務諸表ができるまでを付箋を使ったゲームで学んだ。松山大2年森平章太さん(20)は「適正な人員配置や計画的に公共施設整備を行う重要性を強く感じた」と話した。

10日は、町職員と合わせた想定で事業や施設の優先度を判断するシミュレーションゲームなどを行った。

(永野孝佳)